

佐久市佐久つと支援金事業 自己評価報告書

		評価日	2018年 2月 19日
団体名	子育てサポートセンター ほわほわ		
事業名	子育て応援広場		
対象経費	84,238 円	支援金額	42,000 円

事業の目的・内容	目的
	内容

参加者は51名、予定では60名だったので若干下回ったがほぼ予定通りとなった。年齢も20代から60代と幅広い年齢層が集まったのでさまざまな視点からの意見交換ができた。初対面の人が多い中でどこまで参加者の思いを汲み取れるのかという事に気を配り準備してプログラムを作ったことにより集まった参加者はそれぞれに持っている悩みや不安、自分の思いをたくさん話し、その事をみんなで話し合うことにより安心したり気持ちが整理できる有意義な時間となった。プログラムの初めは多言語の曲をかけながら楽しくダンスやゲームをするヒップファミリークラブさんと一緒に遊ぶ時間、曲が流れるとみんなで曲に合わせて挨拶をしながらゲームをした。子供とどのように遊べばいいか悩んでいた参加者は参考になり家でも今日の遊びをしようと書いていた。親子で楽しく遊ぶ姿は微笑ましかった。腹話術師のヒロ・タッキーの腹話術には子供だけでなく大人も夢中になっていた、いつもじっとしていられない男の子が最前列で動かず座って楽しんでいる姿をみてお母さんもビックリ。子供の可能性を見つけることができた。ヒロ・タッキーは会の初めから最後まで腹話術で子供達を楽しませてくださり来て頂いて本当に良かったと思う。ちいば園長先生の話しはとても温かな口調で優しく参加者に語りかけ、聞いている人を引き込む話。幼い頃から多くのコミュニケーションを取る事の大切さ、生まれてきて良かった、と子供達みんなが思えるような社会になったら本当に素晴らしい事。お母さん達に勇気を与えてくれる話だった。先生の話をもふまえて感想や質問する時間を取った事で率直な意見が沢山出てさらに先生の思いも引き出され興味深い話し合いになった。さらに5, 6人くらいの小さなグループに分かれて意見交換を行ないグループには地域で活動しているコミュニティの人たちに2人づつ加わってもらい細かい部分まで意見交換を行なった。



園長先生のお話し会ということで園児のいる親御さんの参加が多く、子育てについての悩みや保育園との関わり方、障害を持つ子供たちとの接し方、長野県という自然豊かな土地柄を生かした子育ての仕方など多くの話題が上がり、経験豊かな地域の皆さんによるアドバイスや心を受け止める聞き方により悩みがある参加者は気持ちの整理ができたり気持ちの余裕ができ、地域で活動しているコミュニティ団体の参加者にとっては今のお母さんたちの生の声を聞いて今後どのようなサポートが必要とされ、行なっていく事ができるのかということを考えさせられる参加者全員にとって有意義なとても良い時間となった。子供とどのように遊んだらいいのか関わり方の悩みを持っているお母さんは先生の話聞いて子供自身の持っている力に寄り添う事の大切さ、変化に対応できる力を育てるように沢山子供と遊んであげたいと気持ちを新たにすることを感想として述べた。子供との関わり方について改めて考える良い時間になったという参加者もいた。また、自然保育をしている先生の話しから体を使って考え表現できる環境をもっと提供し、外へもっとたくさん子供連れ出してあげたい、と教育に携わる参加者も多くの発見と刺激があった。このような会をまた開催して欲しいという意見がほとんどでさらに地域のコミュニティ団体の活動をもっとよく知る機会を設けて欲しいとの意見も多数あり、開催者としては継続して行なうべき活動である事を深く認識し今後の活動に向けての良い原動力となった。参加していただいた、地域コミュニティ団体の佐久子育てわくわく団は、さくこども食堂やさく親子カフェを定期的に開催している団体、食や遊ぶ事の大切さ楽しさを伝えている。今回の会では大人も子供も居場所が必要で居場所作りが大切であることを強調、参加者からも誰でも集いあえる居場所があったらいいという共感と期待を込めた意見が出た。さらに、参加していただいた、コミュニティ団体のはぐみ園は一時預かり専門の託児所としてママ業を休む時間を提供するというコンセプトの元、子供が産まれると仕事が出来ない社会の現象を憂慮し、もっとお母さん達にも自立して働く環境を整えたいという趣旨を話すと参加者からは実際に気軽に預けられる場所がないという切実な意見が出て一時預かりをしてくれる場所が近くにもあるのだということを知ってもらい良い機会となった。障害を持つ子供を預かる児童指導員と自分の子供が障害を持っている親御さんが同じグループになり障害を持っていても誰でも接して遊べる機会を多く持ちたいとの意見でちいばの幼稚園のような自然の中でのびのび遊ばせてみたいという希望が出たのでみんなでちいばへ遊びに行く計画を今後子育てサポートセンターほわほわで取りまとめていく事になった。

自己評価	事業は申請どおり実施できた	① 大満足 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3, 4と答えた場合のみ)
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	① 大満足 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3, 4と答えた場合のみ)
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	1 ほとんど同じ 2 多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由(2, 3と答えた場合のみ) 会場費、郵送料が当初の見積もりより安くなったため
	その他、評価すべき点等	

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開
アンケート内容や会終了後の反響としてまたこのような会を行なって欲しいという意見が多かったので、定期的な会とし、年間に行なう回数はできるだけ増やせるようにしたい。地域で活動しているコミュニティへ実際に足を運んで見てみたい、という意見もあったので希望者には参加を募って現地見学会を行なう事も計画中。この見学会は来年度春に行なう予定。さらに困った時など気軽にお願いするコミュニティを希望する声も多いので助け合いの輪を作るシステムについても積極的に取り組んでいきたいと思う。